

グリメピリド OD 錠 0.5mg 「ケミファ」、 グリメピリド OD 錠 1mg 「ケミファ」、 グリメピリド OD 錠 3mg 「ケミファ」

【この薬は？】

販売名	グリメピリド OD 錠 0.5mg 「ケミファ」 Glimepiride OD Tablets 0.5mg “Chemiphar”	グリメピリド OD 錠 1mg 「ケミファ」 Glimepiride OD Tablets 1mg “Chemiphar”	グリメピリド OD 錠 3mg 「ケミファ」 Glimepiride OD Tablets 3mg “Chemiphar”
一般名	グリメピリド Glimepiride		
含有量 (1錠中)	0.5mg	1mg	3mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、経口血糖降下剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、すい臓に作用しインスリン分泌を促進して、血糖（血液中の糖分）を下げます。
- ・次の病気の人に処方されます。

2型糖尿病

（ただし、食事療法・運動療法のみで十分な効果が得られない場合に限る。）

- ・この薬は、糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分に行ったうえで効果が不十分な場合に限り、医師の判断により処方されます。
- ・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減した

りすると、病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○この薬により、重篤で長く続く低血糖症（冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、意識の低下、血の気が引く、お腹がすく、手足のふるえなど）になることがあります。患者の皆様や家族の方は、**【この薬を使う前に、確認すべきことは？】**、**【この薬の使い方は？】** および **【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】** に書かれていることに特に注意してください。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・重いケトーシス状態（深く大きい呼吸、意識がなくなる、手足のふるえ）の人、糖尿病性の昏睡状態になりそうな人、インスリン依存型糖尿病（1型糖尿病：インスリンがごく少量しか分泌されないか、あるいは全く分泌されないタイプの糖尿病）の人
- ・肝臓や腎臓に重篤な障害がある人
- ・重い感染症にかかっている人、手術をした人、または手術の予定がある人、大きな怪我をしている人
- ・下痢、嘔吐（おうと）などの胃腸障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人
- ・過去にグリメピリド OD錠「ケミファ」に含まれる成分やスルホニルウレア系経口血糖降下剤で過敏症のあった人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前にそのことを医師または薬剤師に教えてください。

- ・低血糖を起こしやすい次の人
 - ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
 - ・栄養状態の悪い人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分に摂れていない人、衰弱している人
 - ・激しい筋肉運動をしている人
 - ・飲酒量が多い人
 - ・高齢の人
- ・肝臓や腎臓に障害がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	グリメピリドOD錠 0.5mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 1mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 3mg「ケミファ」
1日量	1～4mg*		
飲む回数	1日1回（朝食前または朝食後）、 または1日2回（朝・夕食前または朝・夕食後）		

*1日0.5～1mgより開始し、適宜増減して維持量が決定されますが、1日の最高量は6mgです。

●どのように飲むか？

この薬は、口の中で溶かして飲む薬です。舌の上で唾液を含ませ舌で軽くつぶして、唾液で飲み込みます。唾液だけでは飲み込めない場合はコップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲み込んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。（低血糖を起こすことがあります。）
指示された時間に飲み忘れたら、1回とばして、次の指示された時間に、1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・低血糖症状（冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、意識の低下、血の気が引く、お腹がすく、手足のふるえなど）があらわれる可能性があります。
- ・低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。意識が薄れてきた場合は、ただちに受診してください。
- ・低血糖症状の一つとして意識障害を起こす可能性もありますので、この薬を飲んでいることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・低血糖症状（冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、意識の低下、血の気が引く、お腹がすく、手足のふるえなど）があらわれることがあります。高所作業や自動車などの運転中に低血糖を起こすと事故につながります。特に注意してください。
- ・低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。意識が薄れてきた場合は、ただちに受診してください。
- ・低血糖症状の一つとして意識障害を起こす可能性もありますので、この薬を飲んでいることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。
- ・特に小児が使用する場合は、家族の方も、低血糖症状とその対処方法について

て十分理解できるまで説明を受けてください。

- ・この薬を使用中は、血糖や尿糖などを定期的に検査する必要があります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。






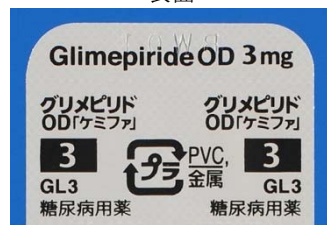



重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、意識の低下、血の気が引く、お腹がすく、手足のふるえ
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	出血しやすい、発熱、寒気、めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、喉の痛み、息切れ、動悸（どうき）、あおあざができる
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、白目が黄色くなる、息切れ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	出血が止まりにくい、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	体がかゆくなる、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	体がだるい、出血が止まりにくい、発熱、寒気、めまい、喉の痛み、息切れ、動悸（どうき）、あおあざができる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、出血しやすい、発熱、寒気、突然の高熱、体がだるい、出血が止まりにくい、力が入らない、体がかゆくなる
頭部	意識の低下、めまい
眼	白目が黄色くなる
顔面	血の気が引く、鼻血
耳	耳鳴り
口や喉	歯ぐきの出血、喉の痛み、吐き気
胸部	息切れ、動悸（どうき）

部位	自覚症状
腹部	お腹がすく、食欲不振
手・足	手足のふるえ
皮膚	皮膚が黄色くなる、あおあざができる
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

販売名	グリメピリドOD錠 0.5mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 1mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 3mg「ケミファ」
PTP シート	 <p>表面</p>	 <p>表面</p>	 <p>表面</p>
	 <p>裏面</p>	 <p>裏面</p>	 <p>裏面</p>
形状	口腔内崩壊錠 	口腔内崩壊錠 (割線入り) 	口腔内崩壊錠 (割線入り) 
直径	5.0mm	6.0mm	8.0mm
厚さ	2.1mm	3.0mm	3.6mm
重さ	42.5mg	85mg	175mg
色	薄い橙色	白色	薄い橙色
識別 コード	GL0.5	GL1	GL3

【この薬に含まれているのは？】

販売名	グリメピリドOD錠 0.5mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 1mg「ケミファ」	グリメピリドOD錠 3mg「ケミファ」
有効成分	グリメピリド (1錠中0.5mg含有)	グリメピリド (1錠中1mg含有)	グリメピリド (1錠中3mg含有)
添加物	D-マンニトール、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、アルファ化デンプン、クロスポビドン、アスパルテーム（L-フェニルアラニン化合物）、ステアリン酸マグネシウム、黄色三二酸化鉄、三二酸化鉄、香料、L-メントール、トコフェロール	D-マンニトール、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、アルファ化デンプン、クロスポビドン、アスパルテーム（L-フェニルアラニン化合物）、ステアリン酸マグネシウム、香料、L-メントール	D-マンニトール、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、アルファ化デンプン、クロスポビドン、アスパルテーム（L-フェニルアラニン化合物）、ステアリン酸マグネシウム、三二酸化鉄、黄色三二酸化鉄、香料、L-メントール、トコフェロール

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：シオノケミカル株式会社 (<https://www.shiono.co.jp>)

販売会社：日本ケミファ株式会社 (<https://www.chemiphar.co.jp>)

安全管理部 くすり相談室

電話：0120-47-9321 03-3863-1225

FAX：03-3861-9567

受付時間：8時45分～17時30分

（土日、祝祭日および弊社休業日を除く）